

寝屋川市ヤングケアラーに関する関係機関への
調査結果報告書

令和 7 年 3 月

寝屋川市

目 次

1	調査概要	1
(1)	調査の目的	1
(2)	調査時期	1
(3)	実施方法	1
(4)	調査事業所等数・対象人数	2
(5)	調査回答数	2
(6)	留意事項	3
2	調査結果（全体）	4
3	調査結果（個別回答票）	14
4	調査結果からの考察	27
5	調査票	28

1 調査概要

(1) 調査の目的

ヤングケアラーについては、近年、子どもが日常的に家族の世話などを過度に担っていることでこどもの権利を侵害していることが社会問題化している。

ヤングケアラーは、家事や介護、育児など年齢や成長の度合いに見合わない重い責任を強いられることで、適切な学業や就職の機会が確保されない等の恐れがあることから、こどもの人権を守ると言う意味において支援を届ける必要がある。

しかしながら、ヤングケアラーは、本人が自らの状況について、家族の役割として当たり前のことだと感じてしまい、問題として捉えていないことが多く、顕在化しにくい傾向がある。

そのため本調査では、ヤングケアラーである子どもやその家庭に関わる可能性の高い、市内の介護事業所、障害サービス事業所、特定教育・保育施設をはじめとする関係機関を対象に、本市のヤングケアラーの現状を把握するとともに、早期にヤングケアラーを発見し、適切な支援につなげることを目的として、実態調査を実施した。

(2) 調査時期

令和6年7月11日～8月9日

(3) 実施方法

LOGO フォームを活用し、QRコードを読み込む又はアドレスを入力していただくWEB方式で実施

(4) 調査事業所等数・対象人数

対象事業所等	事業所等数 (か所)	対象人数 (人)
居宅介護支援事業所	96	285
地域包括支援センター	12	50
障がい者相談支援センター	11	110
障がい者基幹相談支援センター	5	50
放課後等デイサービス	38	380
公立保育所（認定こども園含む。）	6	195
民間保育園等（認定こども園含む。）	43	965
公立幼稚園	2	16
民間幼稚園等	2	14
子ども食堂	14	130
保護課ケースワーカー	1	50
障害者福祉課ケースワーカー	1	11
合計	231	2,256

(5) 調査回答数

ア 総回答数 837 人（回収率 37.1%）

- ・介護事業所等 197 人
- ・障害サービス事業所等 89 人
- ・保育所・幼稚園等 507 人
- ・庁内ケースワーカー 44 人

イ 個別票回答者数 27 人

(6) 留意事項

ア 回答は百分率（％）で示し、小数点第2位を四捨五入で算出している。

そのため、合計が100％にならない場合がある。

イ 複数選択可能な設問の場合は、合計が100％にならない場合がある。

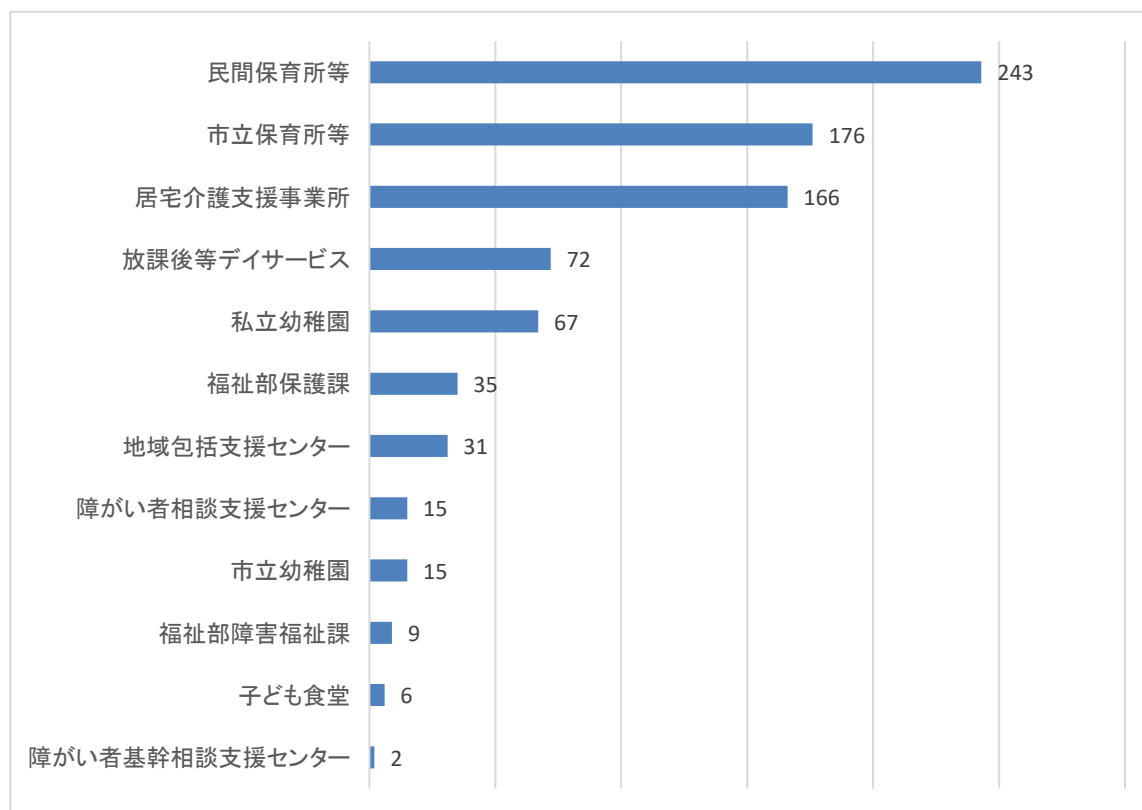
ウ クロス集計等を行うにあたっては、次のとおり対象事業所等を取りまとめて集計を行った。

- ・ 介護事業所等…居宅介護支援事業所、地域包括支援センター
- ・ 障害サービス事業所等…障がい者相談支援センター、障がい者基幹相談支援センター、放課後等デイサービス
- ・ 保育所・幼稚園等…市立保育所等（認定こども園含む。）、民間保育所等（認定こども園含む。）、市立幼稚園、私立幼稚園、子ども食堂
- ・ 庁内ケースワーカー…保護課及び障害福祉課のケースワーカー

2 調査結果（全体）

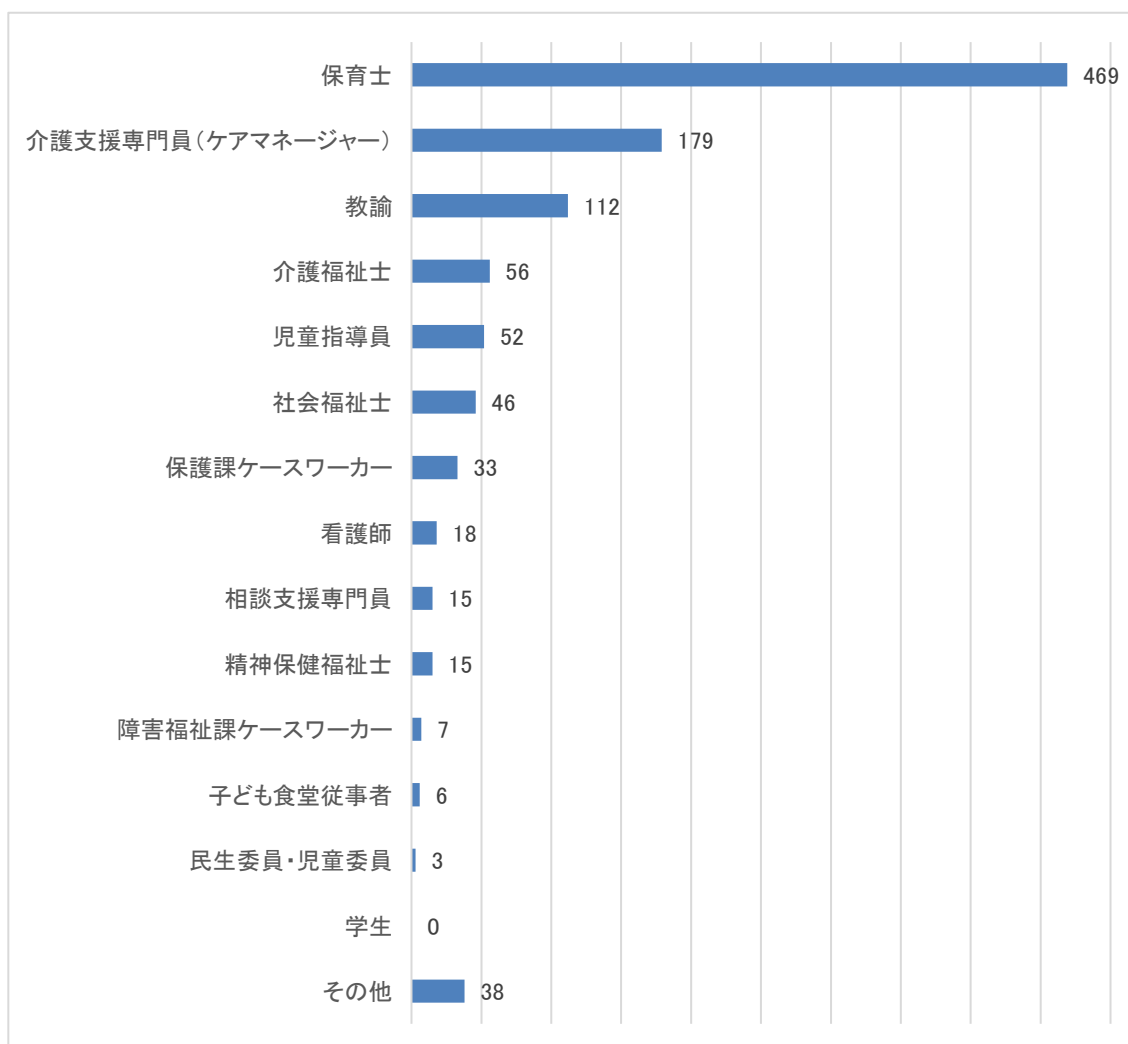
(1) 回答者の所属割合（n＝837） 問1 関係

民間保育所等が 29.0%を占め、次に市立保育所 21.0%、居宅介護支援事業所 19.8%、放課後等デイサービス事業所 8.6%と続いている。



(2) 回答者の職種割合（複数回答可）（n = 837） 問 2 関係

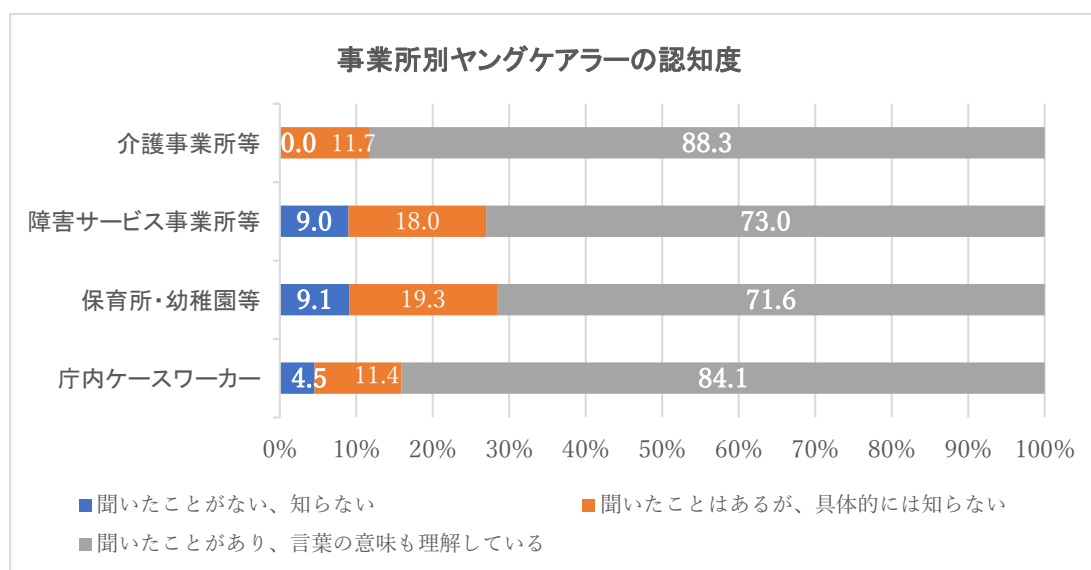
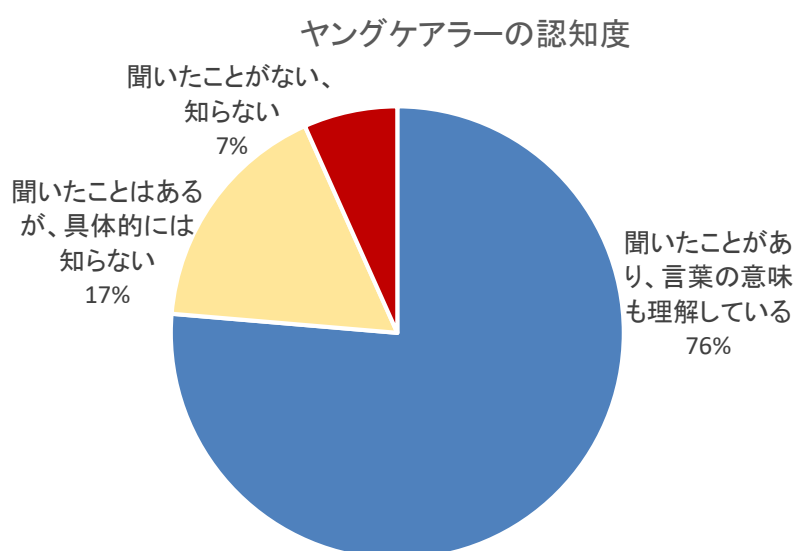
保育士が 469 人で最も多く、次に多かったのが介護支援専門員 179 人、教諭 112 人の順となった。



(3) ヤングケアラーの認知度 問 3 関係

ヤングケアラーの認知度については、「聞いたことがあり、言葉の意味も理解している」が全体の 76.3%であった。「聞いたことはあるが、具体的には知らない」が 17.0%、「聞いたことがない、知らない」が 6.7%と、概ね「言葉の意味も理解している」が 8 割弱を占める結果となった。

所属別では「言葉の意味も理解している」と回答したうち、最も高かったのは介護事業者等の 88.3%で、「具体的に知らない」「知らない」と回答した合計は、保育所・幼稚園等が最も高く 28.4%であった。



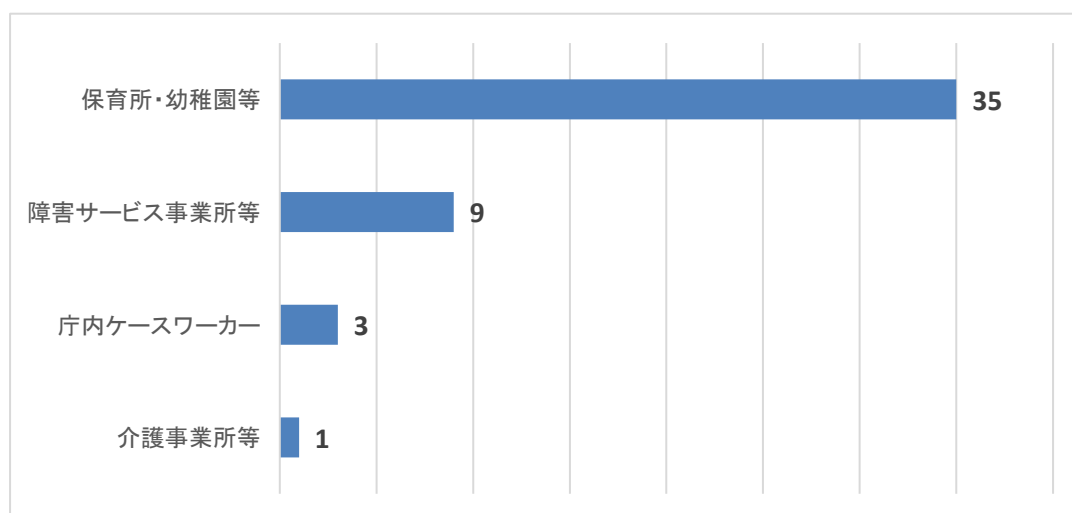
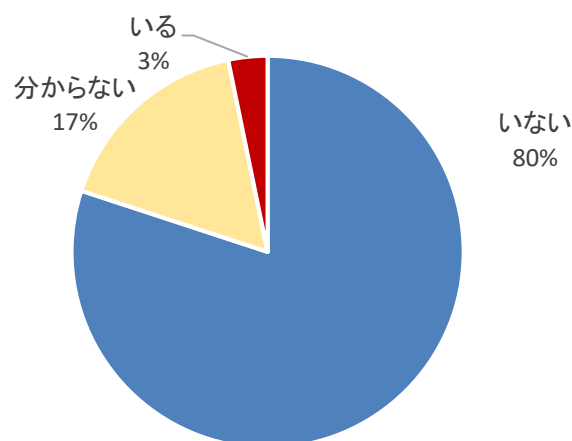
(4) ヤングケアラーではないかと感じる（疑いも含めて）子どもの有無

問4 関係

ヤングケアラーではないかと感じる（疑いも含めて）子どもがいると回答した割合は、全体の3.2%で27件であった。「いる」と回答した人のうち、所属別では、市立保育所等が最も多く、全体の半数以上を占めた。

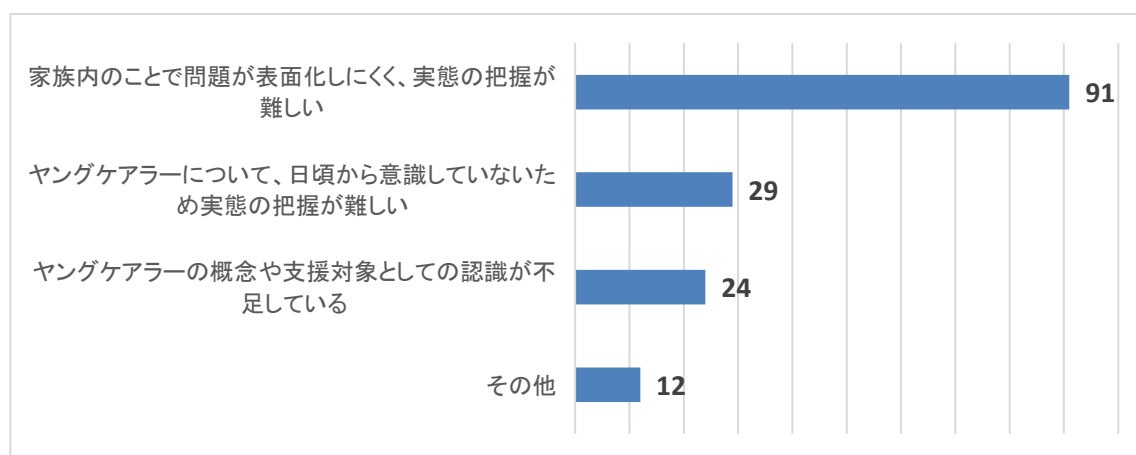
「いる」と回答した人のうち、1人と回答した人は18人、2人と回答した人は6人、4人と回答した人は1人、7人と回答した人は2人で、合計延べ48人のヤングケアラーではないかと感じる子どもがいるとの回答であった。

ヤングケアラーではないかと感じる（疑いも含めて）
子どもがいると回答した割合



(5) 「分からない」と回答した人の理由（複数回答可） 問 4-1 関係

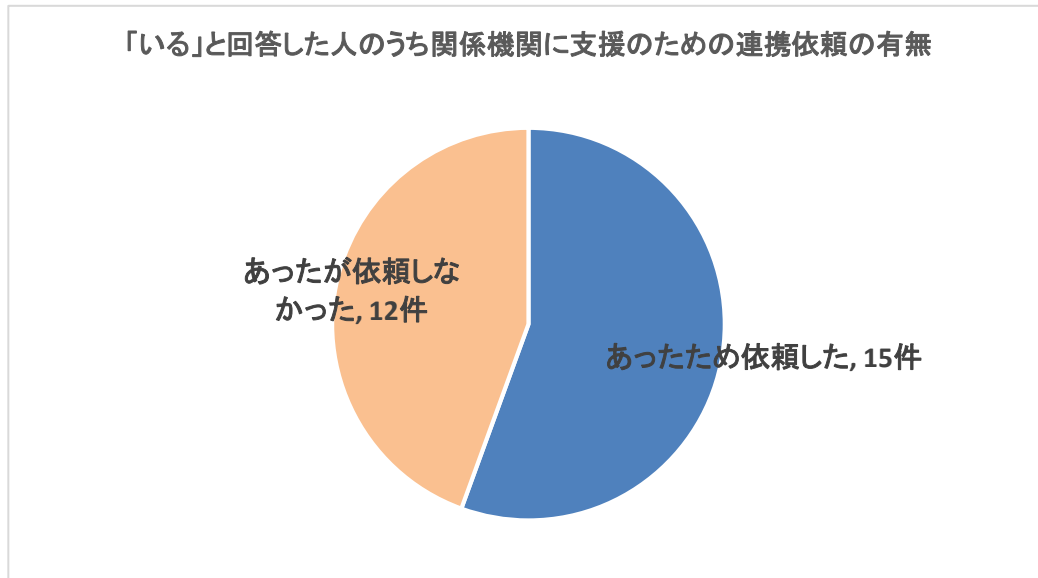
「家族内のことで問題が表面化しにくく、実態の把握が難しい」が、全体の 58.3%と突出しており、次に、「ヤングケアラーについて、日頃から意識していないため実態の把握が難しい」が続いた。その他の意見としては、「パート勤務で時間が短い為、家庭内のことがわかりにくい」、「関わりを持つ方自身が多くを語らないこともあり、把握が難しい」などがあつた。



(6) ヤングケアラー（疑いも含む）について、関係機関への連携依頼の有無

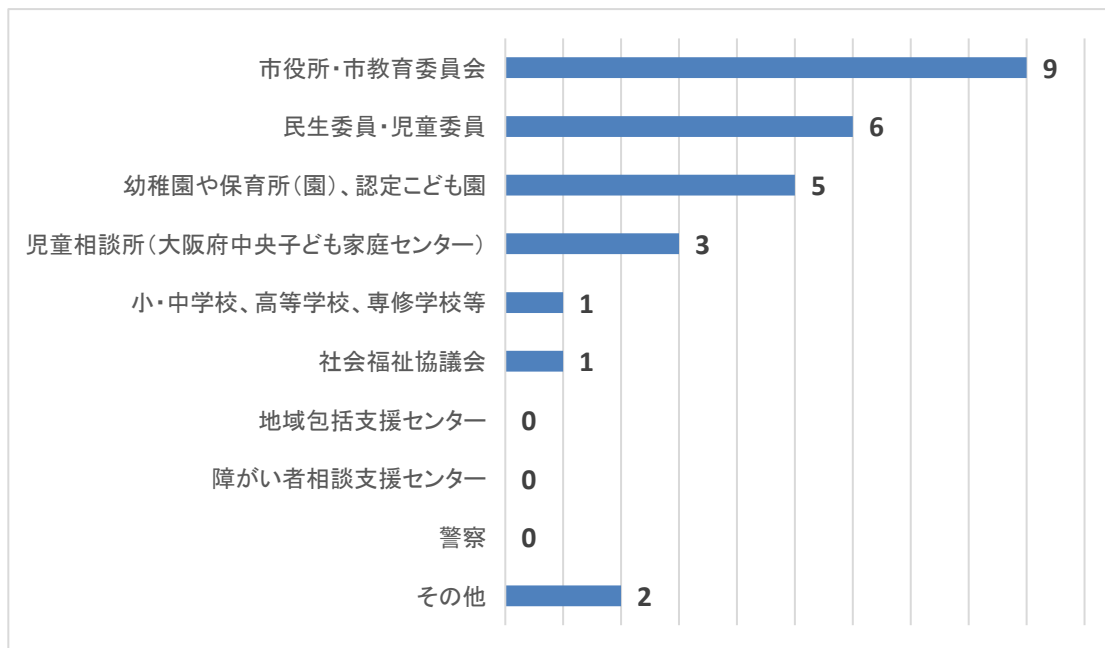
問 5 関係

連携を依頼したと回答したのは 15 人、連携を依頼しなかったのは 12 人で、過半数の人が何らかの関係機関に連携の依頼を行っていた。



(7) 連携を依頼した関係機関（複数回答可） 問 5-1 関係

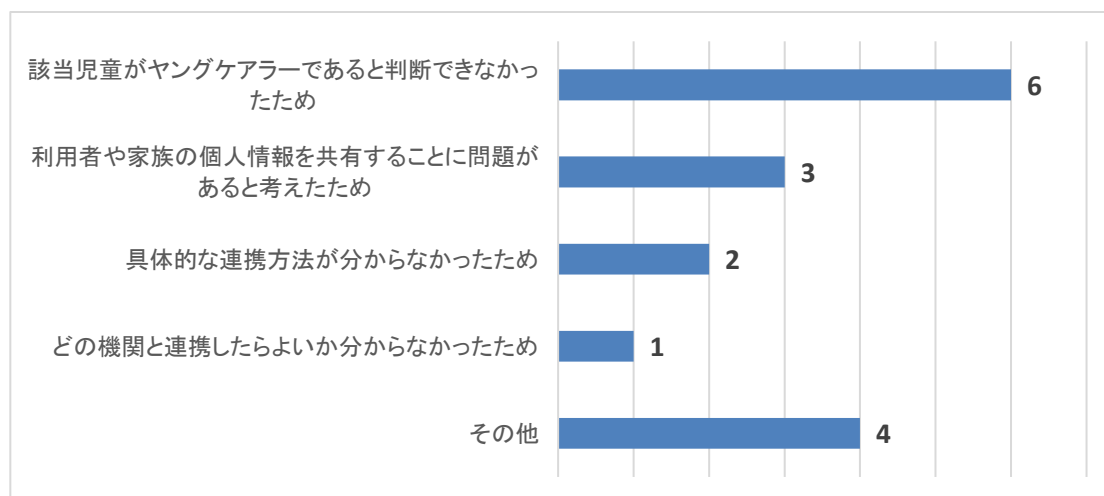
最も多いのが市役所・市教育委員会で、主な連携部署はこども部こどもを守る課、保育課、保護課が記入されていた。次いで、民生委員・児童委員などが多かった。



(8) 関係機関に依頼をしなかった理由 問 5-2 関係

最も多かったのは、「該当児童がヤングケアラーであると判断できなかったため」、次いで「利用者や家族の個人情報共有することに問題があると考えたため」であった。

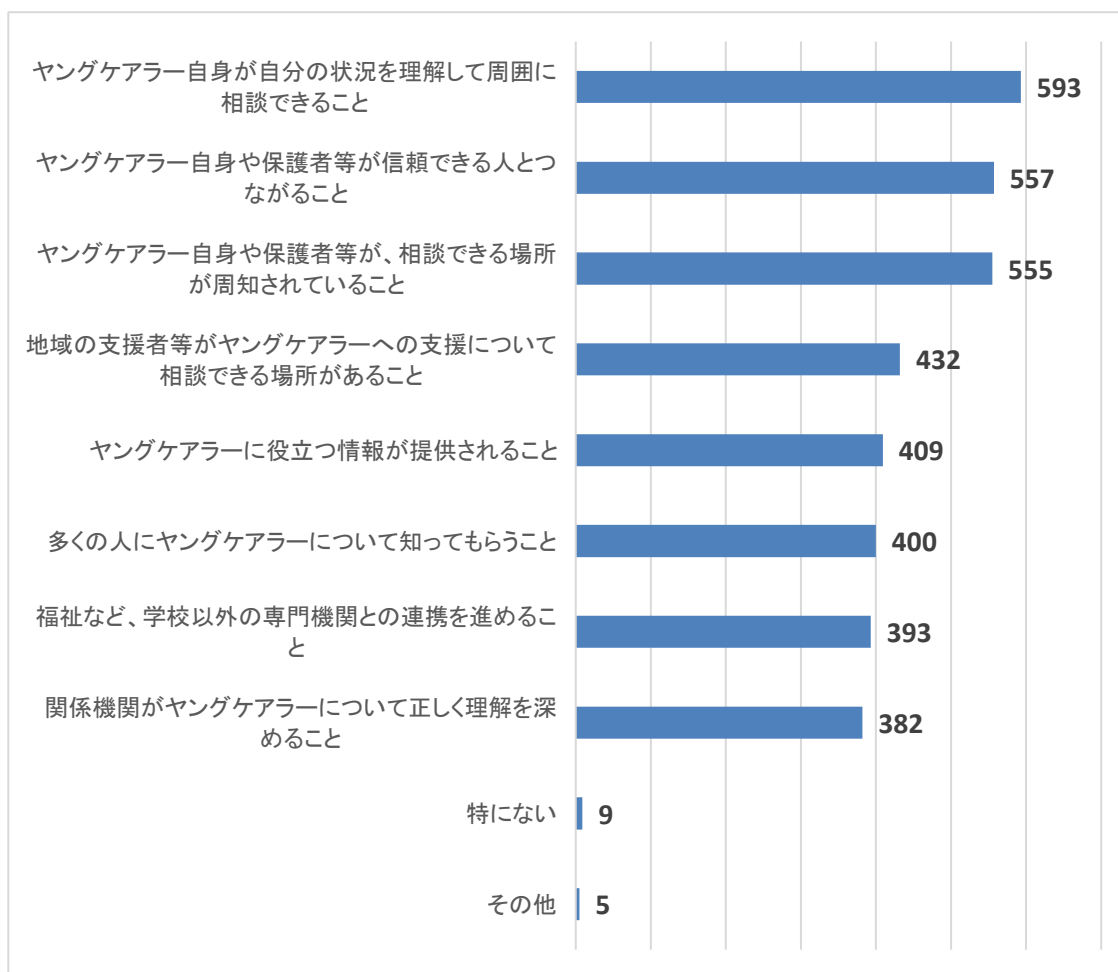
その他の意見としては、「どこまでが伝えるべきかの線引きが難しく、子ども自身からどうしたいかが聞き取りにくい」などの意見があった。



(9) ヤングケアラー（疑いも含む。）支援するために必要なこと（複数回答可）（n = 837） 問 6 関係

最も多かったのは、「ヤングケアラー自身が自分の状況を理解して周囲に相談できること」で全体の 70.8%であり、「ヤングケアラー自身や保護者等が信頼できる人とつながること」、「ヤングケアラー自身や保護者等が、相談できる場所が周知されていること」が6割以上を超える結果となった。

「その他」としては、「ヤングケアラーが自身で抱えず、社会に頼っていいんだと本人が思えるようにする」、「家庭のことは家庭内では思わず、社会でフォローしてくことが必要だと社会（当事者以外）も考えること」、「具体的な支援内容を明確にする」などの意見があった。



(10) ヤングケアラーの発見や支援等に関してのご意見やご提案等（自由記述） **問 7 関係**

本調査において、ヤングケアラーの支援等に関してのご意見やご提案をお願いしたところ、213 件のご意見をいただいた。

特に多かったものは、「相談対応・体制」に関するものが 66 件、次いで「周知・啓発」47 件、「ヤングケアラーの発見」30 件、「環境づくり」28 件、「研修」25 件などのご意見やご提案があった。

(一部抜粋)

【相談対応・体制】

- ・ヤングケアラーの認知度が上がって来ているので、当事者が自分で気づけても発信できないことを鑑み、相談できる場所を増やしたい。
- ・家庭内の問題は表面化しにくく、本人や家族からの訴えがないと対応できないことが多い。いかに相談機関に繋がることができるか、また、ささいな事でも相談を受け止め適切な支援に繋ぐことができるかが課題と考える。
- ・ヤングケアラーと良く聞くがもしかしたら本人が望んでる場合とお世話しないといけないと思ってる方との違いがあると思う。関わりは、慎重に行うべきことだと思う。
- ・ヤングケアラーのような状況になっているのは家族関係上その役割を担わざるを得ないからそうなのだと思う。相談することで親に申し訳ない気持ちになるからヤングケアラーの子が自身で言い出すのは難しいのでないか。その辺、介入するときは慎重に話を聞かないといけないと思う。

【周知・啓発】

- ・ヤングケアラーについて認知はあっても相談出来る窓口や場所の周知が少ないと思うので、自治体など情報を発信してほしい。
- ・周知されてないので本人自身もヤングケアラーとも思っていない人も多いかと思う。本人から助けを求めてもどこに誰に助けを求めたらいいのか本当に分からないので相談できるところの情報を広げることが 1 番大事だと思う。
- ・ヤングケアラーに陥っている自覚がないケースが多くあった。専門職の認知と同様に市民の認知も必要かと思う。

- ・学校などでも、ヤングケアラーについて関心を持てるような取り組みやアンケートをするなどして、当てはまる子どもたちが、自分がそれに当てはまるという自覚を持てるようにしてほしい。周りの大人も身近に、困っている子どもがいるのではないかとアンテナを張らなければならないと思う。

【ヤングケアラーの発見】

- ・ヤングケアラー本人が、自分がおかれた状況が普通ではないことにいち早く気づき誰かに助けを求めることが重要だと考える。普段の何気ない会話の中から早期発見できるよう努める。
- ・地域での繋がりが希薄になっていることが多いのでご近所との関わりができる場があれば発見できることも多いのではないかなと思う。相談するには信頼関係がないと難しいと思う。

【環境づくり】

- ・ヤングケアラー自身が、自分のしていることは当たり前のことと、とらえている可能性が高く、また諦めている場合もあるかもしれない。学校を始め、彼らを取り巻く環境にいる大人が様子に気付いて声掛けから始め、関係をつくり、話しやすい環境を作っていけばよいと思う。
- ・現状を話せる場所や人が身近にいたり、何気ない会話からのキャッチできる環境など、お互いが周りの人関心を持ちながら過ごしていく。
- ・地域住民の横の繋がりを大切にし、地域の子どもたちを住民みんなで、守り育てていくという意識を誰もが持つことが重要だと思う。

【研修】

- ・ご本人が現在困っている事等が何かが分かっておられず、また誰かに相談ができる環境にない場合が多くあると思います。周りの大人の関わりや少しの事でも相談できる体制が整うよう、研修等で支援できる人を増やすことが出来ればと思います。
- ・ヤングケアラー自身が気付いて、支援を必要に思っ機関へ申し出る事は、難しいだろうと思う。しかし、ヤングケアラーについて知っている人も少ないだろうと思うので 関係機関などから情報提供や研修などの実施があればいいなと思う。

【ヤングケアラーの経験】

- ・私自身、今を思えばヤングケアラーでした（学校に行きながら家計援助、親の面倒見ていた）。当時は勿論、そんな言葉もなければ、相談できる人もいませんでした。また、恥をさらしたくなくて自己解決するしかありませんでした。物理的な支援も欲しいですが精神的なサポートもあると、尚、踏ん張ることができると感じます。
- ・自分も高校生の頃より経験があるが、世話をする状況が当たり前だと思っているので、相談するにもどこで誰に相談して良いかわからず1人で溜め込んでいた。幸いにも自分は関わりのあった先生が変化に気付いてくれたおかげで、相談、気持ちを吐き出す事が出来たが、普段関わってくれてる人に変化に気付いてもらう事も大切だと思う。（遅刻が増えた為、授業中にも個別で話を聞いてもらったりした）
- ・かつて…私がヤングケアラー（20代でしたが）に近かったんだなあ、と今にして思う。ひとりで3人の介護と家事&兼業農家でもあり、毎日、出口のない真暗なトンネルの中で彷徨っているようでした。でも…私が家族を見捨てたら後がないと頑張りぬきました。誰にも相談できず、辛かった。色々な方面からの手助けは絶対必要です。

3 調査結果（個別回答票）

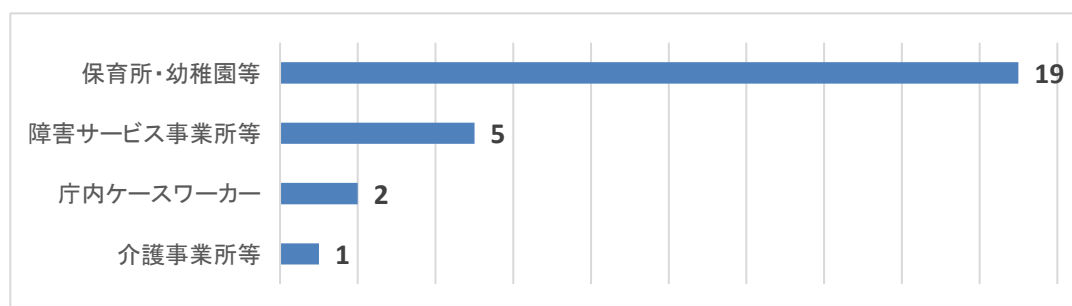
個別回答票は、「ヤングケアラーではないかと感じる（疑いも含めて）子どもの有無」において、「いる」と回答した人にその子どもについて、それぞれ質問したものである。

調査の結果、8事業所等 27人から延べ 32人分の回答があった。

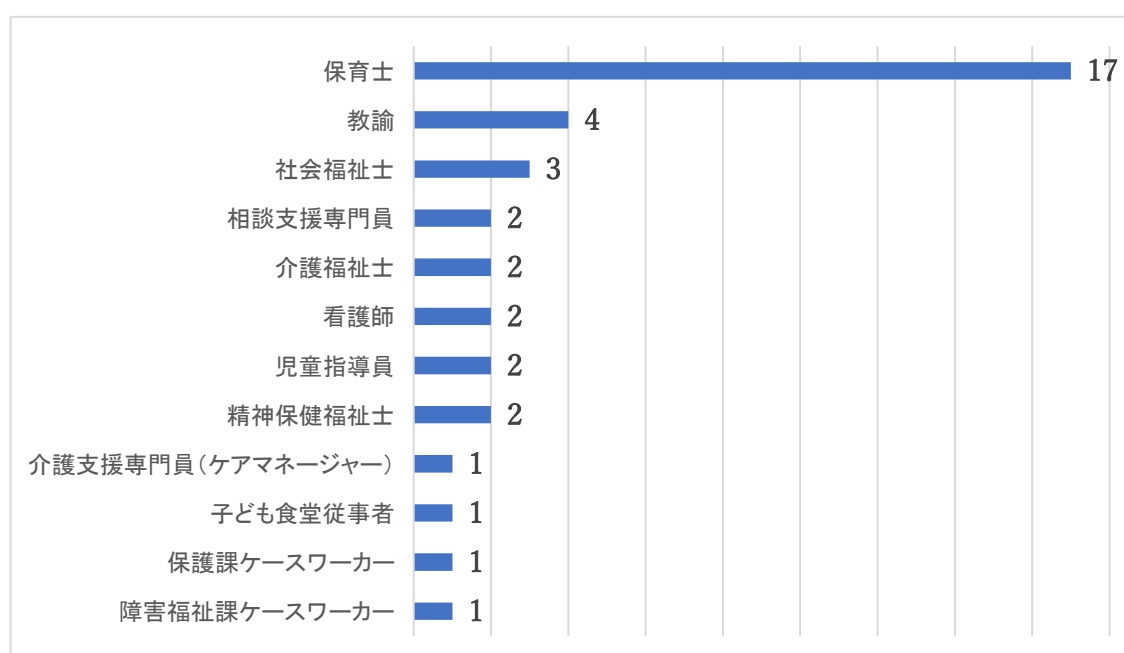
ヤングケアラーではないかと感じる子どもが「いる」と回答した人のうち、1人分の個票を記入した人が 24人、2人分の個票を記入した人が 2人、4人分の個票を記入した人は 1人、合計延べ 32人分の回答があった。

(1) 個別回答票の回答者の所属割合

最も多かったのは「保育所・幼稚園等」で約 7割を占め、次に障害サービス事業所等が続いている。

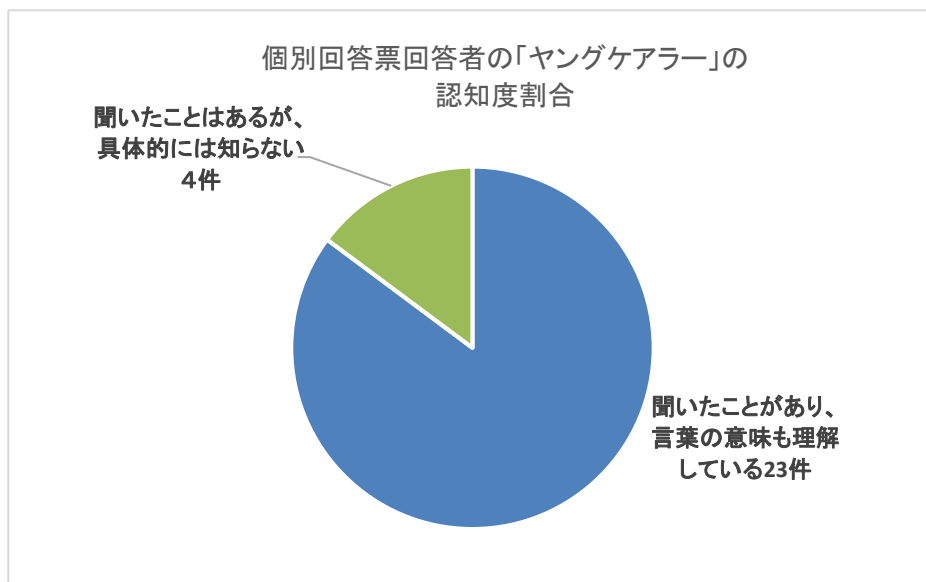


(2) 個別回答票の回答者の職種割合（複数回答可）



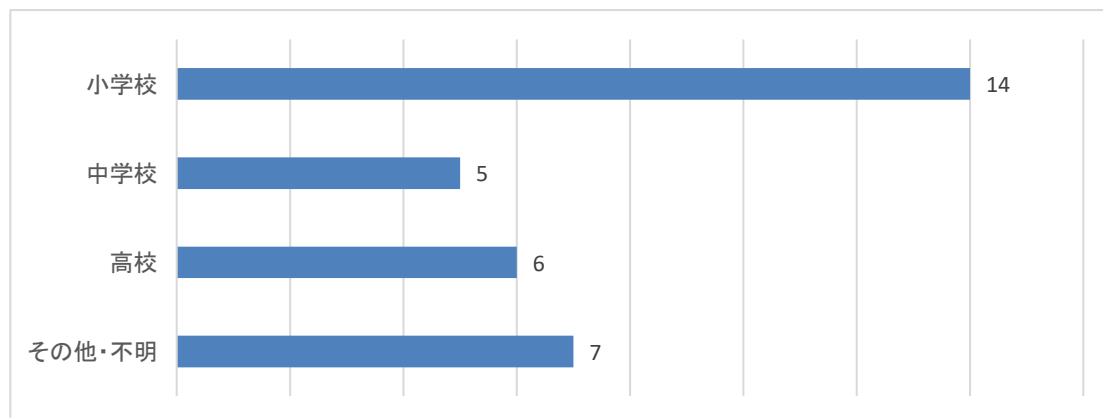
(3) 個別回答票の回答者の「ヤングケアラー」の認知度

全体の認知度と同様に、個別回答票における認知度も「聞いたことがあり、言葉の意味も理解している」が8割以上を占めていた。



(4) 子どもの学校の種別等 個票問 1 関係

最も多かった学校の種別は、小学生 14 人であった。それ以外では、高校生 6 人、中学生 5 人、その他・不明 7 人であった。



【クロス集計（事業所と学校種別）】

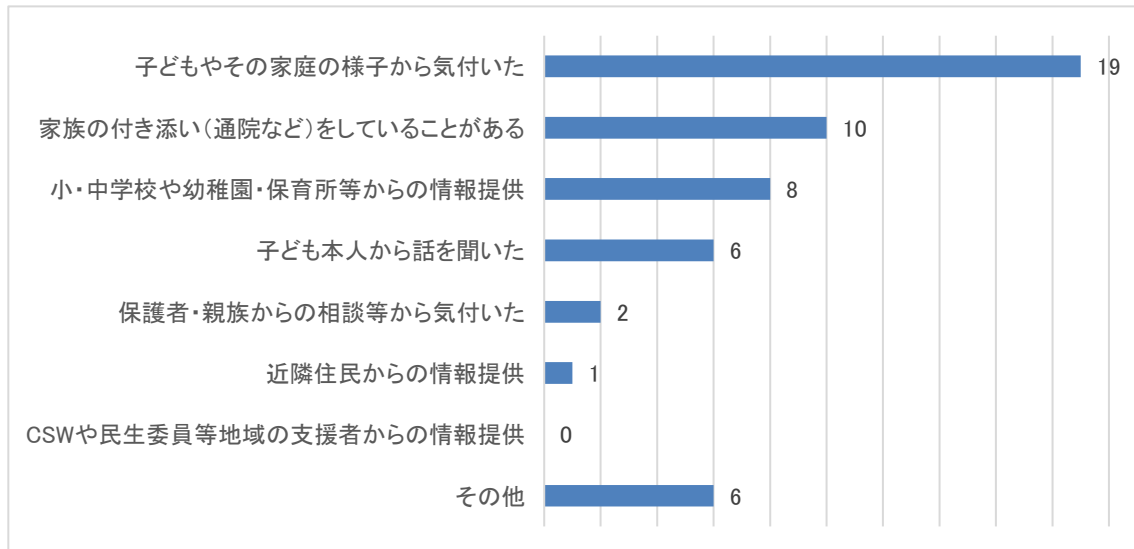
ヤングケアラーの疑いのある子どもについて、小学生は保育所・幼稚園等から、中学生は保育所・幼稚園等と庁内ケースワーカーから、高校生は障害サービス事業所等からの情報提供が多かった。

		事業所の種別			
		介護事業所等	障害サービス事業所等	保育所・幼稚園等	庁内ケースワーカー
学校の種別	小学校	0	1	13	0
	中学校	0	1	2	2
	高校	1	5	0	0
	その他・不明	0	1	6	0

(5) 子どもがヤングケアラーではないかと気づいたきっかけ（複数回答可）

（n = 32） 個票問 2 関係

最も多かったのは、「子どもやその家庭の様子から気付いた」19件で、約6割の回答があった。



【クロス集計（子どもの学校の種別と回答内容）】

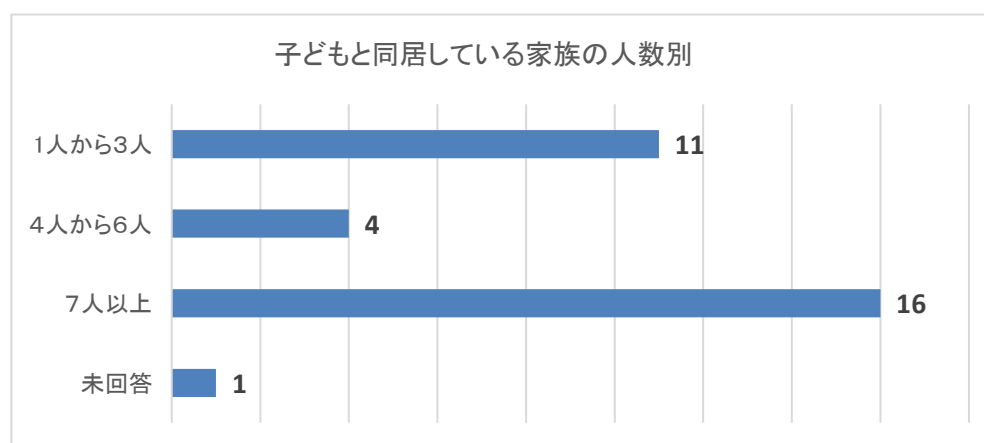
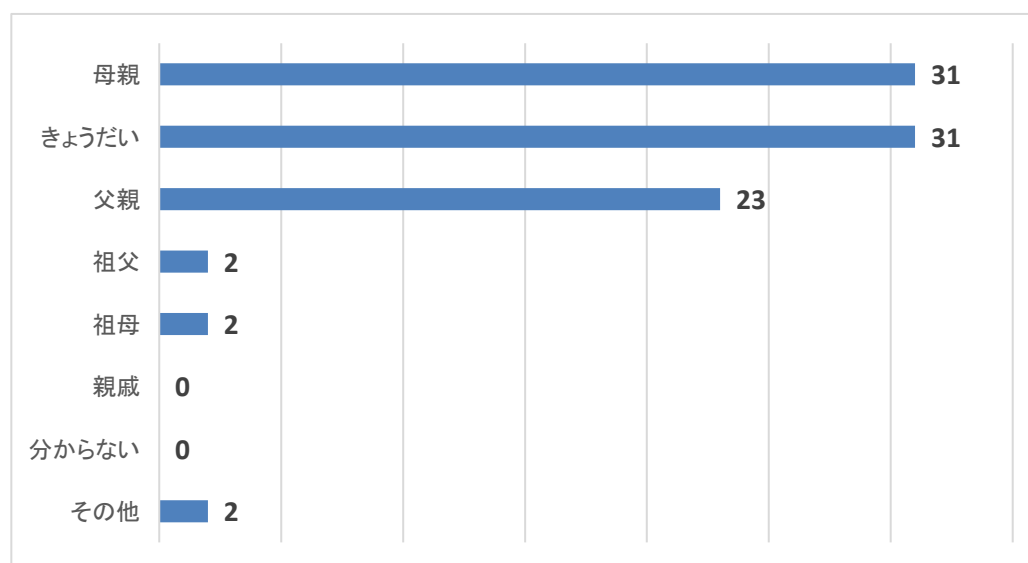
小学生と高校生は「子どもやその家庭の様子から気付いた」が、中学生は「家族の付き添い（通院など）をしていることがある」が最も多かった。全体として、子どもや保護者からの話や相談よりも周囲の人が家庭の様子や行動などから気付いたことが多かった。

		年代別				
		小学生	中学生	高校生	その他	不明
とや 気 づ ぐ い け た ア き ラ っ か で け は な い か	子どもやその家庭の様子から気付いた	12	1	4	1	1
	家族の付き添い（通院など）をしていることがある	5	2	1	2	0
	小・中学校や幼稚園・保育所等からの情報提供	4	1	0	3	0
	子ども本人から話を聞いた	4	0	2	0	0
	保護者・親族からの相談等から気付いた	0	0	2	0	0
	近隣住民からの情報提供	1	0	0	0	0
	CSWや民生委員等地域の支援者からの情報提供	0	0	0	0	0
	その他	3	1	1	1	0

(6) 子どもと同居している家族（複数回答可）（n = 32） 個票問 3 関係

最も多かったのが「母親」、「きょうだい」で 31 件であった。そのうち、ひとり親家庭は 9 人であった。祖父母が同居している家族が少なく、きょうだいが同居している家族が多かった。

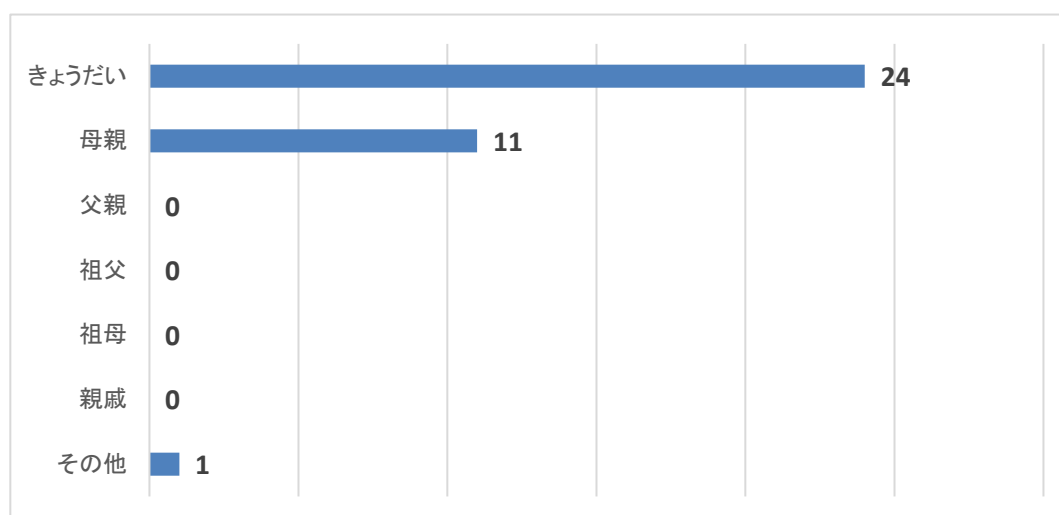
ヤングケアラーではないかと感じる（疑いも含めて）子どもと同居している家族の人数では、「7 人以上」が最も多く、次いで「1 人から 3 人」であった。



(7) 子どもがケア（世話）をしている家族（複数回答可）（n = 32）

個票問 4 関係

最も多かった「きょうだい」が 24 件と全体の 75.0%を占め、次いで母親が 11 件、34.4%で、ほとんどを「きょうだい」、「母親」が占め、「父親」、「祖父」、「祖母」の回答はなかった。



【クロス集計（子どもの学校の種別と回答内容）】

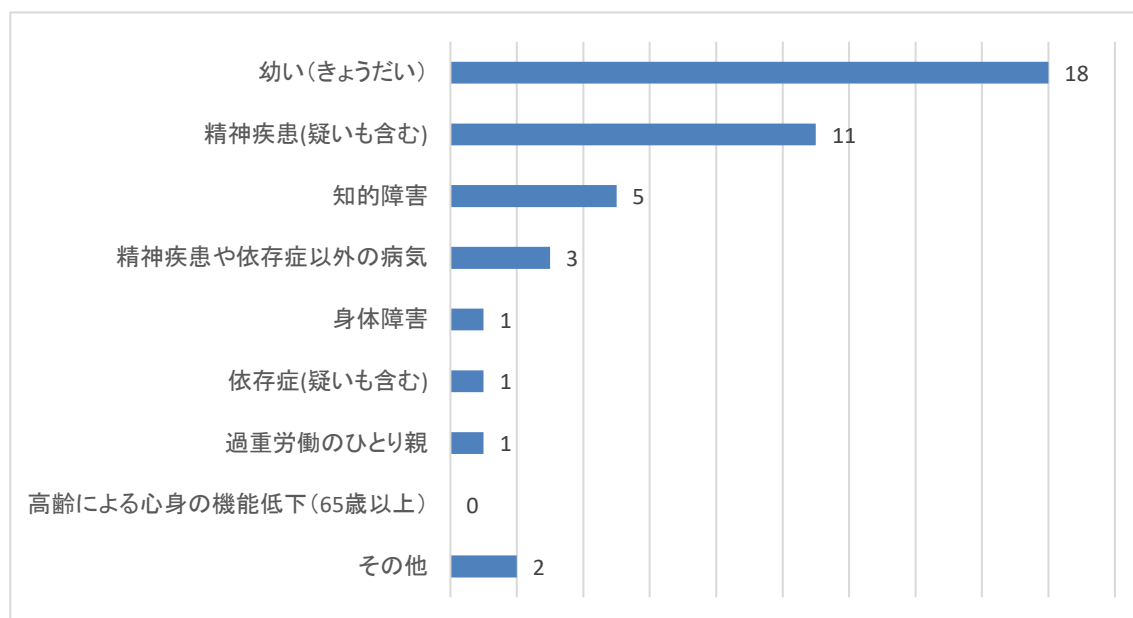
小学生・中学生は、ケアの対象が「きょうだい」が最も多く、高校生は母親が最も多かった。

		年代別				
		小学生	中学生	高校生	その他	不明
ケアをしている家族	きょうだい	11	3	4	4	2
	母親	4	1	5	1	0
	父親	0	0	0	0	0
	祖父	0	0	0	0	0
	祖母	0	0	0	0	0
	親戚	0	0	0	0	0
	その他	0	1	0	0	0

(8) 子どもがケア（世話）をしている家族の状況（複数回答可）（n = 32）

個票問 5 関係

最も多かったのは、「若い（きょうだい）」が 18 件、56.3%で、次いで「精神疾患(疑いも含む)」が 11 件、34.4%という結果であった。



【クロス集計（子どもの学校の種別と回答内容）】

最も多かったのは、「若い（きょうだい）」が 18 件、56.3%で、次いで「精神疾患(疑いも含む)」が 11 件、34.4%という結果であった。

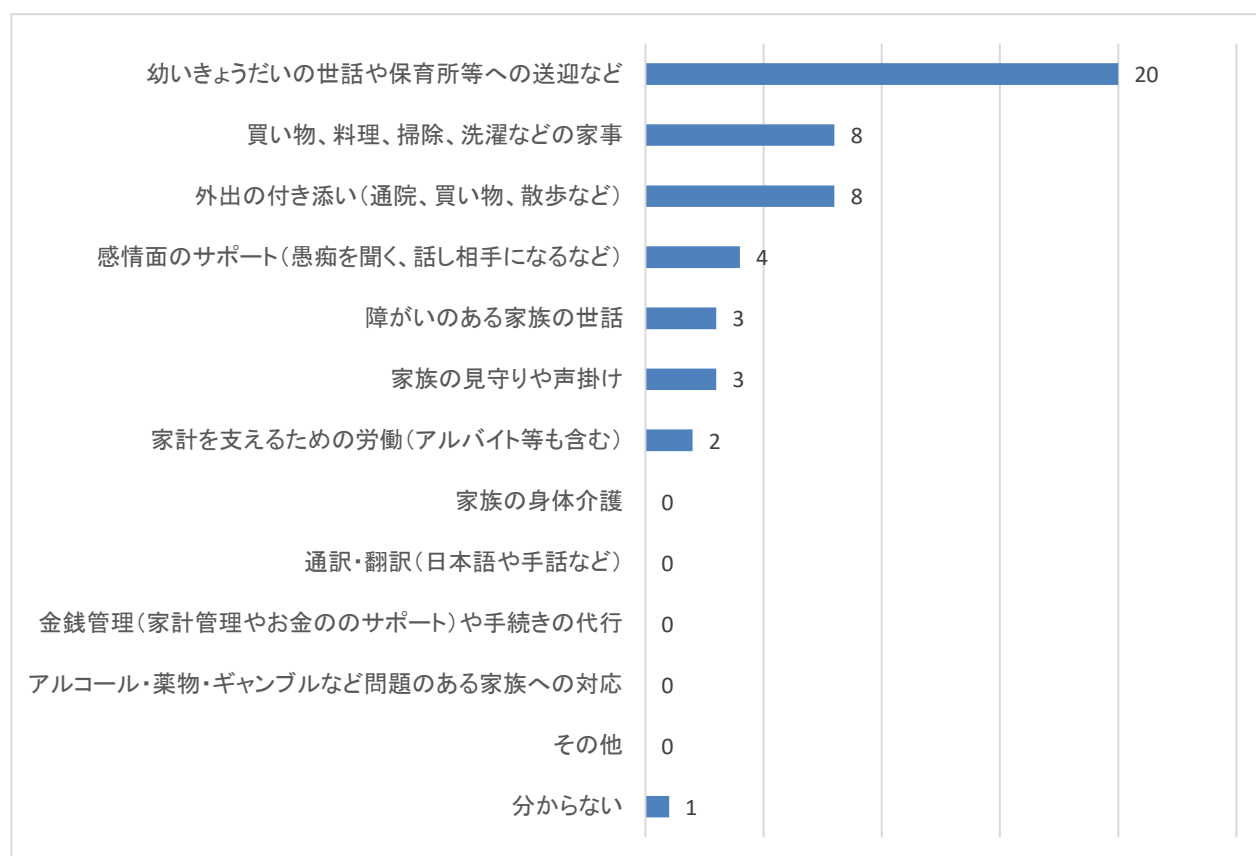
小学生が若いきょうだいのケア（世話）をしている比率が非常に高い傾向がみられる。

		年代別				
		小学生	中学生	高校生	その他	不明
ケアをしている家族の状況	若い(きょうだい)	10	2	1	3	2
	精神疾患(疑いも含む)	2	2	4	2	1
	知的障害	1	2	1	0	1
	精神疾患や依存症以外の病気	2	0	1	0	0
	身体障害	0	1	0	0	0
	依存症(疑いも含む)	0	1	0	0	0
	過重労働のひとり親	0	0	1	0	0
	高齢による心身の機能低下(65歳以上)	0	0	0	0	0
	その他	1	0	0	1	0

(9) 子どもが行っているケア（世話）の内容（複数回答可）（n = 32）

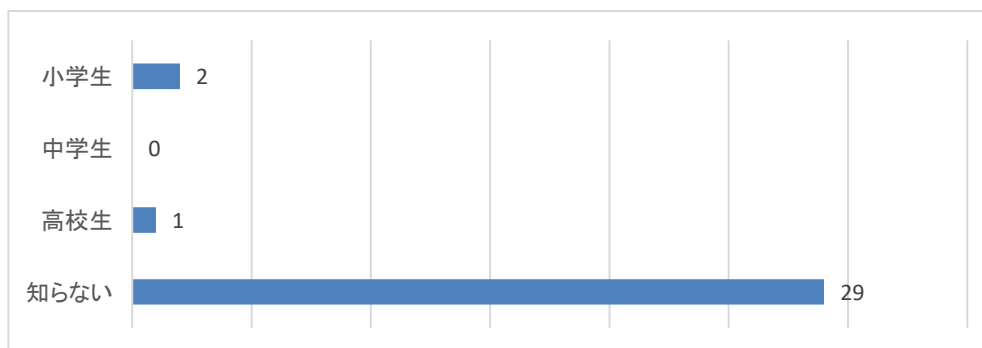
個票問 6 関係

最も多かったのは、「幼いきょうだいの世話や保育所等への送迎など」が20件で62.5%であった。反対に「家族の身体介護」、「通訳・翻訳（日本語や手話など）」、「金銭管理（家計管理やお金のサポート）や手続きの代行」、「アルコール・薬物・ギャンブルなど問題のある家族への対応」の回答はなかった。



(10) 子どもが家族のケア（世話）を始めた時期 個票問 7 関係

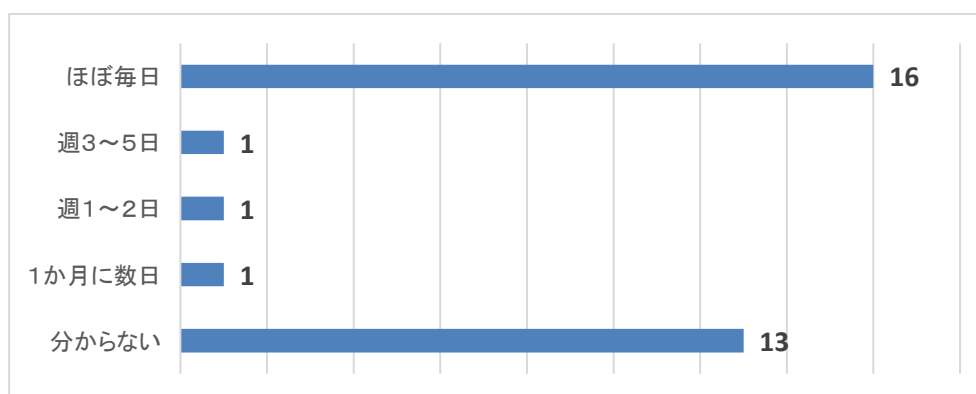
ほとんどの人が「知らない」と回答している。継続的に家庭の中の状況を深く把握するのは難しいことを示している。



(11) 家族のケア（世話）を行っている頻度 個票問 8 関係

家族のケア（世話）を行っている頻度については、「ほぼ毎日」が 50.0%と最も高く、「分からない」も 40.6%の回答があった。

また、町名が同じ世帯に対する回答が、「ほぼ毎日」となっているいることが、少なからず影響している可能性がある。



【クロス集計（子どもの学校の種別と回答内容）】

頻度が確認できる回答（19件）のうち、「ほぼ毎日」が16件と、大半を占めている。

		年代別				
		小学生	中学生	高校生	その他	不明
子どもが行っている家族への頻度をの	ほぼ毎日	9	3	2	1	1
	週3～5日	0	1	0	0	0
	週1～2日	0	0	1	0	0
	1か月に数日	0	1	0	0	0
	分からない	5	0	3	4	1

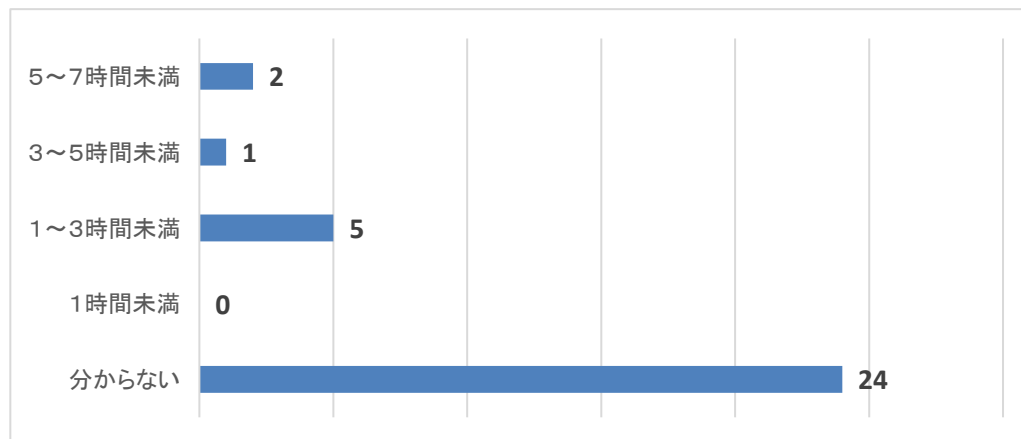
【クロス集計（子どもの家族のケア（世話）を行っている頻度と回答内容）】

家族の身体介護等の回答が少なく、幼いきょうだいの世話や保育所等への送迎などの回答が多いことから、ケアの内容は日常生活に即したものの多い傾向にある。

		子どもが家族のケア(世話)を行っている頻度				
		ほぼ毎日	週3～5日	週1～2日	1か月に数日	分からない
子どもが行っているケア（世話）の内容	幼いきょうだいの世話や保育所等への送迎など	11	1	0	1	7
	買い物、料理、掃除、洗濯などの家事	4	0	1	0	3
	外出の付き添い(通院、買い物、散歩など)	5	0	0	0	3
	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	2	0	0	0	2
	障がいのある家族の世話	2	0	0	0	1
	家族の見守りや声掛け	3	0	0	0	0
	家計を支えるための労働(アルバイト等も含む)	2	0	0	0	0
	家族の身体介護	0	0	0	0	0
	通訳・翻訳(日本語や手話など)	0	0	0	0	0
	金銭管理(家計管理やお金のサポート)や手続きの代行	0	0	0	0	0
	アルコール・薬物・ギャンブルなど問題のある家族への対応	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	分からない	0	0	0	0	1

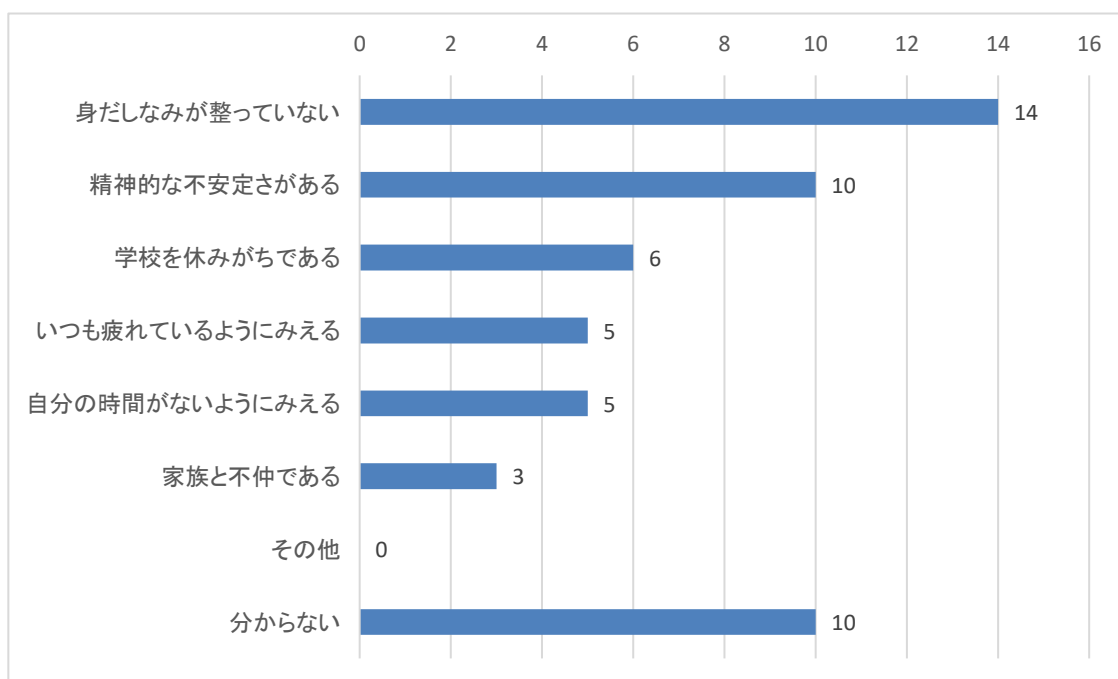
(12) 家族のケア（世話）を行っている1日あたりの時間 個票問9関係

ほとんどの人が「分からない」と回答している。継続的に家庭の中の状況を深く把握するのは難しいことを示している。



(13) 子どもの生活状況（複数回答可）（n = 32） 個票問 10 関係

「身だしなみが整っていない」が14件、43.8%と最も高く、次いで「精神的な不安定さがある」10件、31.3%となっており、本人の外見などに表れることが多いとみられる。



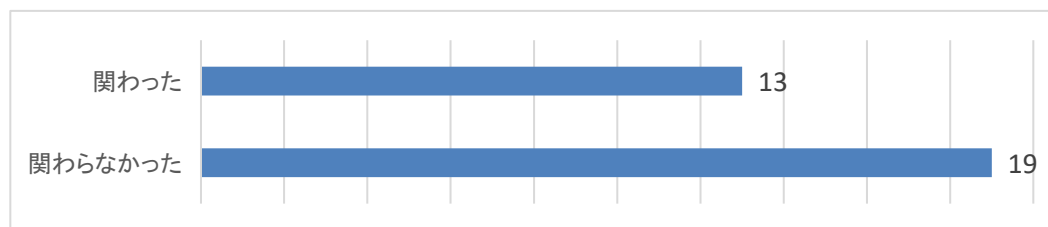
【クロス集計（子どもの学校の種別と回答内容）】

小学生は「身だしなみが整っていない」、中学生は「自分の時間がないように見える」、高校生は「精神的な不安定さがある」が最も多く、年代により目に見える内容が異なっていた。

		年代別				
		小学生	中学生	高校生	その他	不明
子どもの生活状況	身だしなみが整っていない	10	0	1	3	0
	精神的な不安定さがある	4	0	5	1	0
	学校を休みがちである	0	0	4	2	0
	いつも疲れているように見える	4	0	1	0	0
	自分の時間がないように見える	3	2	0	0	0
	家族と不仲である	0	0	3	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	分からない	4	3	0	1	2

(14) 子どもの相談にのったり声かけなどの関わりについて 個票問 11 関係

子どもの相談にのったり声かけなどの関わりを行った割合は 13 人、40.6%であった。



(15) 子どもと関わったときに工夫したことや気を付けたこと（自由記述）

個票問 11-1 関係

ヤングケアラーではないかと感じる（疑いも含めて）子どもと関わったときに工夫したことや気を付けたことについてご意見等をお願いしたところ、次の貴重なご意見をいただいた。

- ・「よくお手伝いしてくれているからお母さん助かってるよね」などと声をかけながら、何か本人の思いが聞き出せるかと試みてみたことがある。
- ・見かける度に声を掛け、学校の様子などを聞いた。
- ・本人が話したいと思うタイミングで話ができるよう、雑談を中心にしていた。
- ・話したい時に話したいことを言う形で、詰問にならない様に気を付けた。
- ・お互いを尊重すること、世帯全体の安心を守ることなど意識して関わった。

上記のご意見から、まず声かけや雑談等により子どもとの信頼関係を築くことを優先して関わるのが、ヤングケアラーが自分の気持ちを話せる雰囲気づくりのために重要であると考えられる。

(16) ヒアリングにご協力いただいた人の割合 個票問 12 関係

「ヤングケアラーではないかと感じる（疑いを含めて）子どもがいますか」の設問に対して「いる」と回答した 27 人のうち 8 人の方が連絡先を記載いただいた。

4 調査結果を踏まえた今後の支援方針

1 「ヤングケアラー」についての理解の促進

ヤングケアラーの認知度については、言葉も意味も理解しているという割合が76.3%であったが、まだ十分とはいえない状況であることから、市広報誌や市ホームページでの周知はもとより、今回アンケートに協力いただいた福祉サービス提供事業者等の“地域で子どもを見守る関係機関”に対して研修等を実施することで全体の認知度を上げていく。

2 「ヤングケアラー」を見つけて支援する

今回の調査において、ヤングケアラーの疑いが認められる家庭の情報を得ることができたことから、当事者を早期に見つけるため、引き続き“地域で子どもを見守る関係機関”からの情報提供を求める。

また、当事者家庭について状況把握に努め、まずは既存の福祉サービスの活用による支援、更には必要に応じて「ヤングケアラー家事等訪問支援事業」の活用を検討する。

3 「ヤングケアラー」が相談しやすい環境を整える

今回の調査において、ヤングケアラーの疑いが認められる小学生が多い結果となっている。その要因として、当事者自身がヤングケアラーとしての自覚がないため、周りの大人に相談することもないなどの理由が推測される。

広く相談先の周知を行うとともに、ヤングケアラーの相談を受ける専門職としてヤングケアラー・コーディネーターを配置し、相談から支援につなげる体制を整える。

5 調査票

～ ヤングケアラーに関するアンケート調査～

ヤングケアラーとは、次のような「家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められるこども・若者」のことをいいます。



障害や病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている。



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている。



障害や病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている。



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている。



日本語が第一言語でない家族や障害のある家族のために通訳をしている。



家計を支えるために労働をして、障害や病気のある家族を助けている。



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している。



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている。



障害や病気のある家族の身の回りの世話をしている。



障害や病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている。

《回答方法》

依頼文に掲載のQRコードを読み込むか、アドレスを打ち込んでいただき、オンライン（LOGOフォーム）で次の方がご回答ください。（5分～10分程度）

- ・居宅介護支援事業所⇒ケアマネージャーの方全員が回答してください。
- ・地域包括支援センター⇒利用者に関わる方全員が回答してください。
- ・障害サービス事業所等⇒利用者に、より関わる方5人が回答してください。
- ・幼稚園、保育所等⇒教諭、保育士の方全員が回答してください。
- ・子ども食堂⇒利用者と直接かかわる方全員が回答してください。
- ・ケースワーカー⇒全員が回答してください。

《回答期日》

令和6年8月9日（金）まで

《問い合わせ先》

寝屋川市こども部こどもを守る課こども相談(担当：奥村、竹澤)

住所：寝屋川市池田西町28番22号

電話：072 - 838 - 0466（直通）

メール：kodomo-m@city.neyagawa.osaka.jp

I 基本情報について

問1 現在、回答いただいている方の勤務している所属について教えてください。（○は一つ）

- | | |
|--------------------------------------|--------------|
| 1 居宅介護支援事業所 | 2 地域包括支援センター |
| 3 障がい者相談支援センター（計画相談支援事業所・障害児相談支援事業所） | |
| 4 障がい者基幹相談支援センター | 5 放課後等デイサービス |
| 6 市立保育所等 | 7 民間保育所等 |
| 8 市立幼稚園 | 9 私立幼稚園 |
| 10 子ども食堂 | 11 福祉部保護課 |
| 12 福祉部障害福祉課 | |

問2 あなたの職種を教えてください。該当があるものをすべて選んでください。（複数回答可）

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1 介護支援専門員（ケアマネージャー） | 2 相談支援専門員 |
| 3 介護福祉士 | 4 社会福祉士 |
| 5 看護師 | 6 児童指導員 |
| 7 精神保健福祉士 | 8 保育士 |
| 9 教諭 | 10 民生委員・児童委員 |
| 11 子ども食堂従事者 | 12 学生 |
| 13 保護課ケースワーカー | 14 障害福祉課ケースワーカー |
| 15 その他（具体的に：_____） | |

II ヤングケアラーについて

問3 以前から「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことはありましたか。（○は1つ）

- | |
|-------------------------|
| 1 聞いたことがない、知らない |
| 2 聞いたことはあるが、具体的には知らない |
| 3 聞いたことがあり、言葉の意味も理解している |

問4 現在、あなたが業務などに関わっている世帯のうち、ヤングケアラーではないかと感じる（疑いも含めて）子どもはいますか。（○は1つ）
また、「いる」場合、ご存知の範囲で何人いますか。

- | |
|--|
| 1 いる（_____人） ⇒ 問5へ（※個別回答票にもご回答をお願いします） |
| 2 いない ⇒ 問6へ |
| 3 分からない ⇒ 問4-1へ |

【問4で「3」と回答した方のみ】

問4-1 その理由をお教えてください。（複数回答可）

- | |
|--------------------------------------|
| 1 ヤングケアラーの概念や支援対象としての認識が不足している |
| 2 ヤングケアラーについて、日頃から意識していないため実態の把握が難しい |
| 3 家族内のことで問題が表面化しにくく、実態の把握が難しい |
| 4 その他（具体的に： _____） |

【問4で「1」と回答した方のみ】

問5 ヤングケアラー（疑いも含む）について、関係機関に支援のための連携を依頼したいと思ったことはありますか。（○は1つ）

- | |
|-------------------------------|
| 1 あったため依頼した（ _____ 人） ⇒ 問5-1へ |
| 2 あったが依頼しなかった ⇒ 問5-2へ |

【問5で「1」と回答した方のみ】

問5-1 連携を依頼した関係機関はどこですか。（複数回答可）

- | |
|-------------------------|
| 1 市役所・市教育委員会（課等： _____） |
| 2 小・中学校、高等学校、専修学校等 |
| 3 幼稚園や保育所（園）、認定こども園 |
| 4 児童相談所（大阪府中央子ども家庭センター） |
| 5 地域包括支援センター |
| 6 障がい者相談支援センター |
| 7 社会福祉協議会 |
| 8 民生委員・児童委員 |
| 9 警察 |
| 10 その他（具体的に： _____） |

【問5で「2」と回答した方のみ】

問5-2 依頼しなかった理由を教えてください。（複数回答可）

- | |
|----------------------------------|
| 1 どの機関と連携したらよいか分からなかったため |
| 2 具体的な連携方法が分からなかったため |
| 3 利用者や家族の個人情報を共有することに問題があると考えたため |
| 4 該当児童がヤングケアラーであると判断できなかったため |
| 5 その他（具体的に： _____） |

【全員におたずねします】

問 6 ヤングケアラー（疑いも含む）を支援するために、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答可）

- | | |
|----|-------------------------------------|
| 1 | ヤングケアラー自身や保護者等が信頼できる人とつながること |
| 2 | ヤングケアラー自身が自分の状況を理解して周囲に相談できること |
| 3 | ヤングケアラー自身や保護者等が、相談できる場所が周知されていること |
| 4 | 関係機関がヤングケアラーについて正しく理解を深めること |
| 5 | 多くの人にヤングケアラーについて知ってもらうこと |
| 6 | ヤングケアラーに役立つ情報が提供されること |
| 7 | 福祉など、学校以外の専門機関との連携を進めること |
| 8 | 地域の支援者等がヤングケアラーへの支援について相談できる場所があること |
| 9 | その他（具体的に： _____） |
| 10 | 特にない |

問 7 ヤングケアラーの発見や支援に関して、ご意見やご提案などがあればご自由にお書きください。（自由記述）

例）ヤングケアラーの発見・支援の上で対応が難しいこと、関係機関に実施してほしい支援や連携上の課題、研修の実施など

質問は以上です。問 4 で「いる」と回答された方は個別回答票への回答をお願いします。

《ヤングケアラーに関する個別回答票》

あなたが業務などで関わっている世帯のうち、ヤングケアラーではないかと感じる（疑いも含めて）ケースを記入してください。

該当の子どもが複数いる場合は、子ども1人について1つずつ個別回答票を作成してください。

問1 その子どもについて教えてください。

① 居住地 (町名でご記入をお願いします。)	例：〇〇町、〇〇三丁目
② 現在の学年及び年齢	学年／小学・中学・高校（ ）年生・その他 年齢／（ ）歳 不明

問2 その子どもがヤングケアラーではないかと気づいたきっかけは何ですか。（複数回答可）

1 子ども本人から話を聞いた 2 子どもやその家庭の様子から気付いた 3 家族の付き添い（通院など）をしていることがある 4 保護者・親族からの相談等から気付いた 5 小・中学校や幼稚園・保育所等からの情報提供 6 C S Wや民生委員等地域の支援者からの情報提供 7 近隣住民からの情報提供 8 その他（具体的に：	）
---	---

問3 その子どもと同居している家族はどなたですか。（複数回答可）

1 父親	2 母親	3 祖父	4 祖母
5 きょうだい（ ）人	6 親戚		
7 その他（具体的に：	）	8 分からない	

問4 その子どもがケア（世話）をしている家族はどなたですか。（複数回答可）

1 父親	2 母親	3 祖父	4 祖母	5 きょうだい
6 親戚	7 その他（具体的に：	）		
8 分からない				

問5 その子どもがケア（世話）をしている家族の状況を教えてください。（複数回答可）

1 高齢による心身の機能低下（65歳以上）	2 若い	
3 身体障害	4 知的障害	5 精神疾患（疑いも含む）
6 依存症（疑いも含む）	7 精神疾患や依存症以外の病気	
8 過重労働のひとり親	9 その他（具体的に：	）
10 分からない		

問6 その子どもが行っているケア（世話）の内容を教えてください。
（複数回答可）

- 1 買い物、料理、掃除、洗濯などの家事
- 2 幼いきょうだいの世話や保育所等への送迎など
- 3 障がいのある家族の世話
- 4 家族の身体介護
- 5 外出の付き添い（通院、買い物、散歩など）
- 6 感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）
- 7 家族の見守りや声掛け
- 8 通訳・翻訳（日本語や手話など）
- 9 金銭管理（家計管理やお金のサポート）や手続きの代行
- 10 アルコール・薬物・ギャンブルなど問題のある家族への対応
- 11 家計を支えるための労働（アルバイト等も含む）
- 12 その他（具体的に：)
- 13 分からない

問7 その子どもが家族のケア（世話）を始めた時期を教えてください。
（○は1つ）

- 1 知らない
2 知っている ⇒ 小学・中学・高校 () 年生
年齢 () 歳

問 8 その子どもが家族のケア（世話）を行っている頻度を教えてください。
（○は1つ）

- | | | | | | | | |
|---|-----------|---|-------|---|-------|---|--------|
| 1 | ほぼ毎日 | 2 | 週3～5日 | 3 | 週1～2日 | 4 | 1か月に数日 |
| 5 | その他（具体的に： | | | | | 6 | 分らない |

問9 その子どもが家族のケア（世話）を行っている1日あたりの時間を教えてください。（○は1つ）

- | | | | | | |
|---|---------|---|---------|---|---------|
| 1 | 1時間未満 | 2 | 1～3時間未満 | 3 | 3～5時間未満 |
| 4 | 5～7時間未満 | 5 | 7時間以上 | 6 | 分からない |

問10 その子どもの生活状況について、下記のようなことはありますか。
(複数回答可)

- | | |
|---|-----------------|
| 1 | 学校を休みがちである |
| 2 | 精神的な不安定さがある |
| 3 | 身だしなみが整っていない |
| 4 | いつも疲れているように見える |
| 5 | 自分の時間がないように見える |
| 6 | 家族と不仲である |
| 7 | その他（具体的に：_____） |
| 8 | 分からない |

問11 その子どもの相談にのったり声をかけたりするなど、関わったことはありますか。（○は1つ）

1 関わった ⇒ 問11-1へ 2 関わることはなかった ⇒ 調査は終了です。

【問11で「1」と回答した方のみ】

問11-1 どのように関わりましたか。また、関わったときに工夫したことや気を付けたことは何ですか。（自由記述）

--

ヤングケアラーがいる世帯への支援等を行っている皆さまにヒアリングを検討しています。ヒアリングにご協力いただける場合は、氏名・連絡先等をご記入ください。市職員は回答者名のみ記入してください。必要に応じて別途、ご連絡させていただきます。

問12

事業所名：

所在地：

回答者名：

電話番号：

メールアドレス：